

月刊 お正月

日の当たらない場所に、初日の出を。

2020.4.30

第四号

猛威を振るう
新型コロナウイルス。
お正月への影響は？



新型コロナウイルスに
負けるな！

二〇二〇年四月二十三日現在、日本を含め世界中で新型コロナウイルスが蔓延しています。大都市を皮切りに、その後全国で緊急事態宣言が発令されるなど、日常生活もままならない社会情勢となっております。ウイルスの感染防止のため、3密（さんみつ／密集、密閉、密接）を避けて行動するように強く求められており、東京オリンピックを筆頭に、計画されていたイベントの多くが、開催の延期や中止を余儀なくされております。

二〇二一年のお正月行事の開催はどうなる？

そうした中、日本正月協会として最も心配されるのが、「二〇二一年のお正月行事が、果たして無事に開催されるかどうか？」という点です。それを考えるに当たり、最も重要なポイントが、「年末ごろまでにコロナショックが終息しているかどうか？」という点でしょう。

現時点でも、新型コロナウイルスの影響により、地域の伝統行事のほとんどが中止になり、新型コロナウィルスの蔓延が続く限り、二〇二一年の正月行事の開催は難しいでしょう。そしてそれは、「開催日までにコロナが終息し

ていればいい」というものではなく、「開催の準備期間にかかる時期までに」終息していなければなりません。

なぜならば、行事の開催のためには、会議や打合せ、練習など、人が集まって話し合いをする機会がどうしても必要です。事前の打ち合わせなく、ある日突如として行事が開催されるわけでは無いのです。その準備期間を含めて、人が安心して集まれる状況にならなければ、正月行事の開催は難しいでしょう。

伝統行事開催と企業活動との違い

企業活動であれば、リモートワークの活用によって、実際に人が集まることなく会合を開催することも可能でしょう。しかし、伝統行事には、そもそも収益性がなく、運営者や責任者の中にお年寄りも少なくないのが伝統行事ですので、リモートワークの活用は非現実的でしょう。したがって、実際に人が集まって開催される会合が、準備に必要となります。

そのような準備も含め、できれば三ヶ月、遅くとも一か月ほどの期間が必要でしょう。現に、二〇二〇年四月二十三日現在、

全国各地で夏の花火大会の中止が公表されており、この事実からも、花火大会に相当する規模の伝統行事であれば、3ヶ月ほど前には、社会情勢が安定していなければ実施されないことがわかります。従いまして、正月行事の円滑な開催には、九月末～十一月末頃までのコロナ終息が望まれるところです。

二〇二〇年九月末～十一月末頃の終息は可能か？

年内、特に二〇二〇年九月末～十一月末頃のコロナ終息について、「可能性はある」とお答えできるでしょうか。なぜでしょうか？ではそもそも、新型コロナウイルスの「終息」とは、何なのか考えてみましょう。感染者が広がっていないことが「終息」なのででしょうか？

終息には「ワクチン開発」が必要

一つの考え方として「ワクチンができること」が、終息の条件と考えられています。ワクチンをみんなが摂取できれば、感染による重症化を予防することができるからです。では、ワクチンができるまでには、一体どれくらいの期間が必要でしょうか？

コロナ終息時期の見立て

2020年4月	ワクチン開発
同年10月頃まで	厚生労働省による 治験・承認(半年間)
同年10月頃	ワクチンの摂取開始
同年11月初旬	コロナ騒動の終息宣言

※記事の執筆者は医療の従事者ではありません。※記事執筆時点で一般的に収集できる情報を集めて予測したものです。

危ぶまれます。ところが、日本の厚生労働省には「先駆け審査指定制度」という制度があります。これは、上記の治験・承認のプロセスを早めるための制度で、早ければ

現在、新型コロナウイルスのワクチン開発は世界各国が取り組んでいるようです。しかし、ワクチンの開発そのものよりも、それをクスリとして投与できるようにするための、国による「治験・承認」のプロセスに、最も時間がかかるようです。通常、このプロセスには1年〜1年半もの期間を必要とします。もしも、この通りのスケジュールで進行すれば、正月行事が開始されないどころか、延期された東京オリンピックの開催すら

半年で、開発されたワクチンをクスリとして投与できるようにあります。

終息時期の見立て



二〇二〇年四月二十三日十二時現在、ワクチンが完成したという報道は聞かれていません。もしも仮に、明日ワクチンが完成し、半年後にクスリとして使用可能になったとすれば、二〇二〇年十月頃、クスリができればすぐに終息、というわけではありませんから、新型コロナ

ウイルスの潜伏期間2週間を加算して考えると、どんなに早くともコロナショックが終息するのは十一月初頭頃と考えられます。(注意…これは「緊急事態宣言の解除がそこまで延期される」ということを意味するものではなく、また「自粛要請期間」でもありません。あくまで「ワクチン開発とその一般使用可能な時期」を予測し、言及しているものですので、誤解のないようお願いします。)

ロナショックが終わるのならば、正月行事を開催することは可能でしょう。また、遅くとも十一月末頃にコロナショックが終息すれば、正月行事が開催できると考え逆算すれば、今から一ヶ月以内、五月二十三日頃までに、ワクチン開発の報道が出てくるならば、正月行事開催の希望は見えてくるでしょう。つまり、「九月末〜十一月末頃までのコロナ終息は可能か？」という問いには「可能性

(当協会HP 四月二十三日時点 記事を本誌用に修正し掲載。)

はある」とお答えできると思います。



三密対策で、お屠蘇の飲み方はこう変わる!

日本のお正月の独特な風習の一つに、「お屠蘇」というものがあります。これは端的に言えば、お正月の期間中に、疫病をはじめとする魔よけ、厄除け、邪気払いのために、伝統的なシーズニングの入った日本酒を、家庭内で飲み回す儀式です。

「StayHome」の求められるコロナ渦中においても、外出を必要としないお屠蘇は十分実施できます。しかし、今まで通りのやり方でお屠蘇を実施することは、三密予防の観点から、好ましくありません。そこで、日本正月協会として、コロナ渦中においてお屠蘇を実施する際の注意点をご案内します。

1、手洗いは除菌剤で

元日の早朝に井戸から汲み取った『若水(わかみず)』で手を清めるのが、古くからの習わしと言われておりますが、コロナ渦中の現代では、その習わしに縛られることは懸命ではありません。アルコール除菌剤やせっけんなどを使い、入念に手洗いをして、お屠蘇を飲んでください。

2、年長者から年少者への順番で

一般に、年長者の方が新型コロナウイルス感染での重症化リスクは高いと言われております。古くからの習わしでは、年少者から年長者の順にお屠蘇を飲むことで、若者のパワーを年長者に受け継がせると言われていますが、新型コロナウイルスまでもが受け継がれてしまつては本末転倒です。古い慣習に縛られず、その本来の意図と目的を考え、柔軟に対応しましょう。

3、時間差お屠蘇にする(なるべく同じ部屋にいない)

家族が並んで座り、順番にお屠蘇を飲むのが古くからの習わしです。しかし、新型コロナウイルス感染予防の観点から、家族が密集・密接するのは危険です。ソーシャル・ディスタンスの考え方から、なるべく1.5~2mの距離をとって並ぶのがよいとされていますが、一般の家庭の中で、その距離を確保し、並ぶのは難しいでしょう。したがって、家族が一人ひとり別々に、入れ替わり立ち代わりお屠蘇のある部屋に入り、一献ずつお酒を飲むのがいいでしょう。

4、未成年者の飲酒、飲酒後の運転はしない

こちらは新型コロナウイルスの蔓延とは関係がありませんが、未成年者の飲酒、飲酒後の運転は、法律により禁じられています。絶対にやめましょう。

縁起物のネット通販
日本正月協会販売部
<https://www.oshogatsu.org/shop>

行事情報をお寄せください
日本正月協会
<https://www.oshogatsu.org>

発行・編集・著作
JA 日本正月協会
Japan Shogatsu Association